

目 次

I 序 言

- 1 調査の経緯 4
- 2 川原寺の沿革 5
- 3 川原寺の伽藍と既往の調査 8

II 検 出 遺 構

- 1 古墳時代の遺構 12
- 2 川原寺創建期直前の遺構 12
- 3 川原寺の遺構 12
- 4 平安時代以後の遺構 19
- 5 鉄釜鑄造遺構の型取り 20

III 出 土 遺 物

- 1 ガラス関連遺物 21
- 2 冶金関連遺物 21
- 3 鉄釜鑄造関連遺物 26
- 4 瓦磚類 28
- 5 土器類 33

IV 調 査 成 果 の ま と め 38

挿 図 目 次

- | | |
|----------------------------|--------------------------------------|
| Fig.1 飛鳥・藤原京周辺の遺跡 | Fig.15 埴塙 |
| Fig.2 川原寺と飛鳥の主要遺跡 | Fig.16 轡羽口 |
| Fig.3 飛鳥藤原第119-5次ほか周辺調査位置図 | Fig.17 砥石 |
| Fig.4 飛鳥藤原第119-5次調査遺構図 | Fig.18 金属製品 |
| Fig.5 炉跡平面図・断面図 | Fig.19 鉄釜鑄型片・鉄釜復原図 |
| Fig.6 北区画の炉跡群 | Fig.20 出土軒瓦 |
| Fig.7 SX599基礎構造 | Fig.21 出土平瓦 |
| Fig.8 SX599基礎構造の調査風景 | Fig.22 工房関係遺構、土器溜りSX650出土土器 |
| Fig.9 鉄釜鑄造土坑SX599平面図・断面図 | Fig.23 鉄釜鑄造関係遺構出土土器 |
| Fig.10 瓦窯と炉跡群 | Fig.24 瓦窯関係遺構出土土器 |
| Fig.11 北面大垣SA600柱穴の断ち割り調査 | Fig.25 滑石製模造品と玉類 |
| Fig.12 総柱建物SB590全景 | Fig.26 鉄釜鑄造作業復原模式図 |
| Fig.13 鉄釜鑄造遺構の型取りと鑄型の取り上げ | Fig.27 建久九年銘和歌山県本宮大社の鉄釜と
川原寺鉄釜復原図 |
| Fig.14 鑄型 | |

表 目 次

Tab.1 川原寺略年表

Tab.2 出土瓦磚類集計表

図版目次

PL.1 調査区全景（1）

PL.2 調査区全景（2）

PL.3 総柱建物

PL.4 冶金関連工房（1）

PL.5 冶金関連工房（2）

PL.6 冶金関連工房（3）

PL.7 鑄造土坑（1）

PL.8 鑄造土坑（2）

PL.9 瓦窯と瓦溜り

PL.10 北面大垣と下層遺構

PL.11 冶金関連遺物類（1）

PL.12 冶金関連遺物類（2）

PL.13 冶金関連遺物類（3）

PL.14 瓦

PL.15 土器（1）

PL.16 土器（2）

例 言

1. 本書は古都保存事業に関わる史跡川原寺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は奈良県生活環境部風致保全課の委託を受けた奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部が、平成15年2月14日から同年7月31日にかけて実施した。
3. 本調査は飛鳥藤原第119-5次調査に該当する。
4. 発掘調査には毛利光俊彦・内田和伸・渡辺丈彦・奥村直紀・小谷徳彦・松村恵司・小池伸彦・箱崎和久・前岡孝彰・富永里菜・飛田恵美子・渡部圭一郎・笈和也・村上隆があたり、小野沢亮子・梅澤教子（京都橘女子大学生）の協力を得た。
5. 本書の作成は、調査部長金子裕之の指導のもと、調査部全員があたり、以下のように執筆分担した。
I-1 松村恵司、I-2 竹内亮、I-3 箱崎和久、II-1~4 松村・富永里菜、II-3B・5 渡部圭一郎、III-1・2 富永、III-3 渡部、III-4 小谷徳彦・笈和也、III-5 前岡孝彰・飛田恵美子、IV 松村。
6. 遺構・遺物の写真撮影は、井上直夫が担当し、岡田愛が協力した。
7. 奈良文化財研究所・奈良国立文化財研究所の過去の刊行物に関しては、下記の略称を使用した。
『奈良国立文化財研究所年報2000-I』→『年報2000-I』・『川原寺発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第九冊→『報告』・『飛鳥・藤原宮発掘調査概報26』→『藤原概報26』
8. 遺構図の座標値は、平面直角座標系第VI系（世界測地系）による。高さは、東京湾平均海面を基準とする海拔高であらわす。なお平面図には、世界測地系のほかに日本測地系の座標も括弧書きで併記した。
9. 本書の編集は松村恵司と富永里菜がおこない、稲田登志子・中川あや・東村純子・六車美保・飯田真理子・木瀬智晴の協力を得た。